

2017.3.1

会員各位

平成 29 年度 (2017 年度) 日本保険学会第 71 回年次大会のご案内

日本保険学会 理事長 福田 弥夫
大会実行委員長 久保 英也
(滋賀大学)

来年度大会は、他学会との連携運営をはじめとして、様々な新しい趣向で実施されますので、例年より早めに御案内申し上げます。

1. 日時

2017 年 10 月 27 日 (金) 午後 4 時～

10 月 28 日 (土) および 29 日 (日) 終日

2. 場所

滋賀大学経済学部 (彦根キャンパス)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場一丁目 1 番 1 号

大会実行委員会事務局 TEL&FAX 0749-237-1083

アクセス <http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/ipc/access/>

(JR 彦根駅から徒歩 25 分、タクシー 10 分 800 円程度、新幹線米原駅から 1 駅)

懇親会場はマリアージュ彦根 (彦根駅至近) TEL 0749-26-1101 を予定

3. 大会とシンポジウム、共通論題の趣旨

2016 年 9 月末の本学会会員の大学教員研究者 285 名のうち、将来学会を支えるであろう 40 歳未満の会員数はわずか 54 名 (全体の 2 割) であり、現在の主力会員である 50～65 歳の会員数 90 名の 60% に過ぎません。「若手を育成しろと言われても、育てる若手がない」との声を時折耳にいたしますが、その直感を数字は冷徹に表しています。

とりわけ、大学教員会員の 7 割を占め、研究活動の国際化と分野のボーダレス化により優秀な研究者を分野や国を問わず採用する「経済・商学分野」の現状はより厳しいものがあります。ただ、若手研究者層が薄いという点では、法学分野も法科大学院シフトなど状況は同じです。

このような状況を勘案し、若手会員の育成に向けた具体的な取り組みを加速、もしくは

抜本的対策を講じる必要があります。

まずは、この深刻な事態を学会の理事だけではなく全学会員が共有し、その打開策を真摯に議論し、そして、実際に行動を起こす契機となる大会としたいと思います。

したがって、本大会は、

- (1) シンポジウムのテーマを「今、学会の存続をかけた若手研究者の育成」とし、
- (2) 若手育成の一手段である学会のオープン化と会員増を企図し、同時期に滋賀大学で開催される「日本リスク研究学会大会*」との連携運営を行う。

こととしたいと思います。

一方、この若手育成は一朝一夕になしえることは難しく、長期の時間軸と戦略を構えざるを得ません。その間、ディープ・ラーニング型人口頭脳技術、ブロックチェーン、ビッグデータ処理、そしてインターネットと物を結ぶ IoT などの産業革命に匹敵する技術革新により、まったく新しい保険サービスや保険事業者の登場が予想されます。

そこで、多くの革新の中で、日本の産業構造と保険業界に最も大きな変化を与えるであろう「自動運転革命」を共通論題に取り上げ、今我々は何をすべきなのかを一緒に考えたいと思います。

すなわち、学会の「内」と「外」の両課題をしっかりと見据え、そこから逃げず、立ち向かう大会とします。その実現のため、「日本リスク研究学会」との連携運営を行い、双方の年次大会効果のシナジーを最大化したいと思います。

*日本リスク研究学会：

会員数約 650 名の文理融合型学会で、創立 28 周年。災害・食品安全・化学・リスクコミュニケーション・金融など分野を「リスク」で分野横断的に繋ぐ学会。

2016 年度大会の研究報告数 65 本、うち若手は 45 本。世界規模のリスク研究の学会である SRA (Society for Risk Analysis) の一員。同学会の HP は、<http://www.sra-japan.jp/cms/>

4. 本大会の新機軸

上記の目的を達成するために、本大会では新たに下記のような企画を行います。

(1) 大会の 3 日間運営

10 月 27 日 (金) の夜に若手セッションを設置 (サンドイッチをつまみながら、課題を車座で議論) ⇒日本リスク研究学会のセッションに参加する。

(2) オープニングセッションの開催

若手研究者の海外学会への参加や海外ジャーナルへの投稿を促進するため、投稿スキルの向上を企図した学習会を開催する(「実践、海外ジャーナル投稿の勧め」)。

(3) ポスターセッションの新規設置

- ・40歳未満の研究者全員（大学関係研究に加え、広く実務家も）が基本的にポスターを作成（模造紙1枚）し、研究報告を行う。但し、負担を勘案し、簡単な研究紹介、自己紹介、告知だけでもよしとする。ポスター作製マニュアルも提供する。
- ・「ポスタービューイング」を2日目に設置し、大会参加者全員と若手研究者がポスター前で対話する機会を作る。日本リスク研究学会のポスター展示と同一会場とし、学会を超えた議論、意見交換を支援する（飲み物も提供）。
- ・ポスター発表優秀賞の設置。優秀ポスターを参加者の投票で決定し、日本保険学会賞（著書、論文）と合わせて表彰する。

(4) 両学会による共同セッションを設置

各学会から2名ずつのパネリストを出し、シンポジウムを企画する。
テーマは、後日発表。

(5) プログラムの相互開放

今回は連携大会のため、日本保険学会年次大会の参加者は、日本リスク研究学会の大会プログラムにも自由に参加が可能となる。

プログラムの相互開放を行い、日本リスク研究学会の若手研究者に保険分野に興味を抱いてもらうと共に、日本保険学会会員には、若手が活躍するリスク研究学会の活動を肌で実感してもらう。

(6) 招待講演

金融庁の Fintec 関係部署の幹部を予定。

(7) 経済学部附属史料館見学ツアーの実施

同資料館は、伊藤忠、丸紅の原点である近江商人資料 11 万点を所蔵する。

5. 大会実行委員（順不同）

山下 友信	同志社大学教授
米山 高生	一橋大学教授
大井 暁	弁護士
吉澤 卓哉	京都産業大学教授
柳瀬 典由	東京経済大学教授
山崎 尚志	神戸大学准教授
菊池 健太郎	滋賀大学准教授
久保 英也	滋賀大学教授（大会実行委員長）

6. ホテル事情

彦根駅、南彦根駅周辺にホテルは以下の通り。京都に比べれば予約は取りやすいと考えられますが、どのホテルも規模が小さく、早めの予約が好ましいと思います。

- ・コンフォートホテル彦根【駅前】
- ・ホテルサンルート彦根【駅前】
- ・彦根キャッスルリゾート&スパ【彦根城隣接、駅徒歩8分、大学まで徒歩15分】
- ・グランデュークホテル彦根【駅近】
- ・ホテルエクスタシオン彦根【駅前】
- ・かんぼの宿 彦根【琵琶湖畔：大学へ徒歩15分】
- ・彦根ビューホテル【琵琶湖湖畔：大学へタクシー5分】
- ・東横イン 米原駅新幹線西口【米原駅に隣接、2015年3月オープンで新しい】
- ・ホテルレイクランド彦根【一つ京都よりの南彦根駅の駅前】

7. アクセス



① 東海道新幹線「米原駅」下車、JR 琵琶湖線に乗り換え大阪方面に1駅「彦根駅」下車。なお、京都⇒彦根（新快速50分）、大阪⇒彦根（同80分）。

② JR彦根駅から徒歩25分、タクシー10分。米原駅からタクシー15分。